

CONTENTS

1 UKAS審査報告

2 MICニュース

EMSに認証権限機能設置
MIC審査登録件数トップテンに
information

3 連載よみもの

MICリレーエッセイ
連載読み物「環境とISO14001」

4 審査の現場から

MIC最長の審査日数紹介
(株式会社ふじや食品)
規格紹介

5 お客様からのお便り

ISO14001の維持審査を終えて
(株式会社ヤマショー)
ISO14001を導入して
(株式会社長崎スクラップセンター/
有限会社鉄屋商会/有限会社清紀運輸)

6 研修コースのご案内

ちょっといっづく
コースのご紹介/受講生からの
お便り

UKAS 審査報告

MIC 審査部長 成毛 秀雄

私たちムーディー・インターナショナル・サーティフィケーション(MIC)は、ご承知の通り、イギリスに本社をもち、世界約50ヶ国で業務を展開しているムーディーグループの一つです。MICは、現在、25ヶ国にある支社で、UKAS、その他の認定機関に認定され、ISO9001/14001の審査・認証業務を行っております。イギリス本社は毎年UKASの維持審査を受け、25ヶ国の支社のうち、日本を含む重要管理拠点も維持審査を受けております。



MIC日本支社は、今年2月初旬に5日間にわたり、UKASによる維持審査を受けました。ISOの認証制度において、UKASなどの認定機関による審査機関の審査の基準となるものは、各認定機関の要求事項とISOガイド62、66、及び各審査機関のシステム文書類などです。これらに基づき、審査・認証活動を含む事務所内におけるすべての業務について詳細な審査を受けました。

審査項目は、引合、見積、申請、契約などの受注業務、審査員資格認定基準、審査員教育訓練、審査適切性、社内職員教育訓練、認証手続、認証管理、文書・記録の管理、秘守義務、不適合・苦情管理、改善活動などを含みます。審査の結果、すべての審査項目についてシステムが効果的に運用されていることが証明され、また、改善がおこなわれており、不適合はなくシステムは満足できるものであるとの報告を受けました。これにより、UKASの認定の継続が確認されました。

私たちは今後共継続的改善をすすめ、お客様へのサービスの向上を目指し、常に初心を忘れず、付加価値のある審査活動のための努力を続けていく所存です。

今後共、お客様皆様の更なるご指導、ご鞭撻の程よろしくお願ひ申し上げます。



発行

ムーディー・インターナショナル・サーティフィケーション株式会社
大阪事務所

〒532-0003 大阪府大阪市淀川区宮原4-1-14
住友生命新大阪北ビル13階

Tel: (06) 6150-0571 Fax: (06) 6150-0575

http://www.moodygroup.co.jp/mic_index.htm





日本での環境マネジメントシステム認証権限機能設置

昨年11月、イギリス本社からの許可を受け、ISO9001品質マネジメントシステムに加え、ISO14001環境マネジメントシステムにおいても、日本での認証権限機能が設置されました。これにより、従来イギリス本社にて発行していた認証書を日本のスキームマネージャーの判断にて発行できるようになり、より迅速なサービスを提供できるようになりました。日本語での認定証発行も可能ですので、ご希望に合わせてお選び頂けます。ご不明な点・ご質問等ございましたら、お気軽に弊社までお問合せください。

MIC審査件数トップテンに

2003年12月末現在の品質システム(ISO9001)審査登録機関別の市場シェアで、MICがトップテンに入りました。また、審査登録機関別登録件数(ISO9001)における直近3ヶ月の増加率順位でも、2003年9-12月で第5位、外資系で第3位を達成しました。今後も、皆様へのよりよいサービスの提供に努力していく所存ですので、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

information

規格紹介 ~ 労働安全マネジメントシステム(OHSAS) ~

最近、企業に対して利潤を求めるだけでなく、環境問題等の社会的責任を求める動きが活発化してきています。その社会的責任の一つとして、社員が安全で衛生的な環境で働けるようにすることが挙げられます。この労働安全衛生の管理に関する唯一の国際的な規格が労働安全衛生マネジメントシステム OHSAS18001 で、OHSAS は、Occupational Health and Safety Assessment Series(直訳すると、例えば、"職場における健康と安全評価審査のシリーズ"とでもなるでしょうか)の頭文字をとっています。

OHSAS18001の源流は英国規格 BS-8800 で、OHSAS18001は、欧州を中心とした複数の審査会社が審査登録用の規格として作成した民間規格です。本規格には、品質・環境マネジメントシステムと同様にPDCAの考えが取り入れられています。環境マネジメントシステムでは、環境への影響を"環境側面"、"環境影響"で捉えているのに対し、OHSAS18001では、労働安全衛生に関する影響を"危険源"、"危険源の特定"、"事故誘引"という形で捉えています。そして、これらを除去、低減することにより、事故を未然に防止し、安全で安心して働ける職場環境を構築することを目的としています。

皆様も、社員が安心して働ける職場とするため、OHSAS18001に取り組まれてはいかがでしょうか？

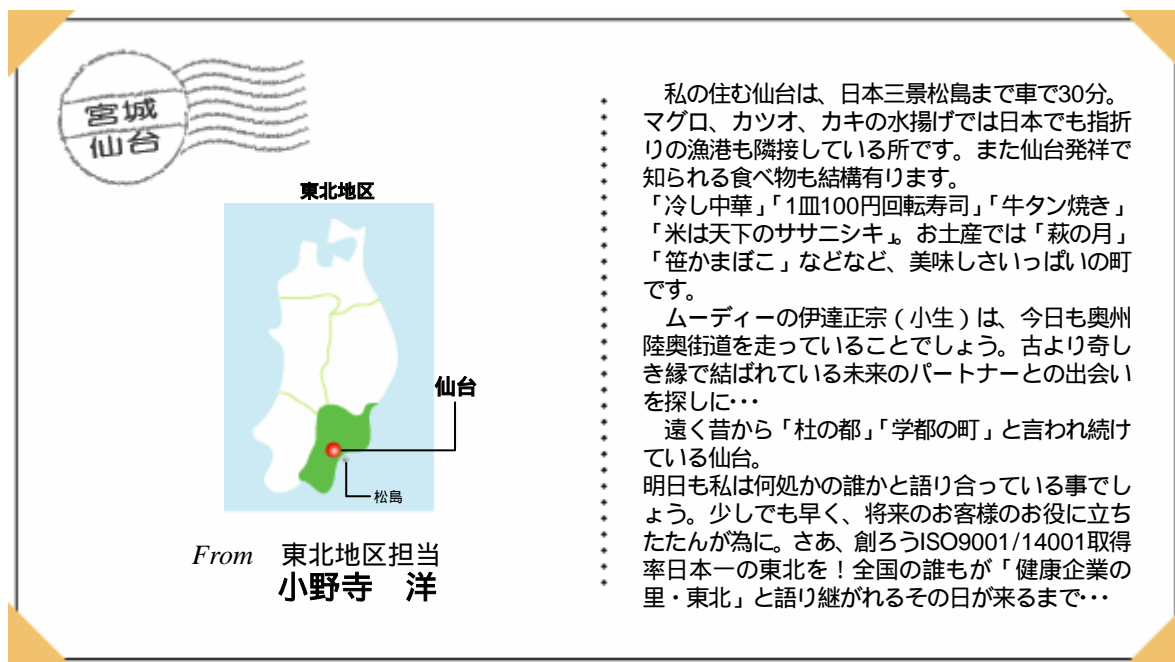
食品安全マネジメントシステムの国際規格化

近年、食への安全性に対する社会的関心は益々高まっており、食品関連企業にとって、食品の安全性をいかに確保し、信頼性を高めるかは最大の課題の一つとなっています。現在、食品関係の代表的システムとしてHACCPがありますが、このHACCPを品質マネジメントシステム(ISO9001)の要求事項に組み入れた新規格、ISO22000の制定が進められています。この規格では、食品製造業だけでなく、設備や包装材料の供給者、サービスの提供者なども含んでいることが特徴です。今後審議がさらに進められ、2004年度中には制定の予定です。

この規格が、食品関連企業の効果的なツールとなり、その導入拡大によって、私たちを取り巻く食の安全性・信頼性の向上に大きく寄与していくことが期待されます。

MICリレーエッセイ

今号は、前回北海道より南下し、東北地区仙台からのエッセイをお楽しみください。次回は、北陸地区富山からお届けします。



私の住む仙台は、日本三景松島まで車で30分。
 マグロ、カツオ、カキの水揚げでは日本でも指折りの漁港も隣接している所です。また仙台発祥で知られる食べ物も結構有ります。
 「冷し中華」「1皿100円回転寿司」「牛タン焼き」「米は天下のササニシキ」。お土産では「萩の月」「笹かまぼこ」などなど、美味しさいっぱい町です。
 ムーディーの伊達正宗(小生)は、今日も奥州陸奥街道を走っていることでしょう。古より奇しき縁で結ばれている未来のパートナーとの出会いを探しに…
 遠く昔から「杜の都」「学都の町」と言われ続けている仙台。
 明日も私は何処かの誰かと語り合っている事でしょう。少しでも早く、将来のお客様のお役に立ちたたんが為に。さあ、創ろうISO9001/14001取得率日本一の東北を！全国の誰もが「健康企業の里・東北」と語り継がれるその日が来るまで…

連載「環境とISO14001」

企業を取り巻く環境は日々変化し、環境リスクへの対応が企業にとって欠かせないものとなってきています。益々関心が高まっているISO14001に関する連載の第2回をお届け致します。

第2回 「環境経営とISO14001」

MIC 環境審査部長 郷古 宣昭 Nobuaki Goko

前回は、地球規模で環境破壊や環境汚染が進行していること、地球上のあらゆる人々はそれぞれの立場で環境問題に取り組む必要があること、ISO14001は、主として事業者向けに作成された環境活動に関するマネジメント規格であることを述べました。マネジメントとは、単に「管理」というより「経営管理」という意味に近く、「環境マネジメントシステムを構築する」とは、環境問題を経営管理にリンクさせることにほかならないのです。すなわち、「環境経営」に向かって一歩踏み込むことを意味します。では、「環境経営」で何をすべきでしょうか。

まず第一に、「環境リスク管理」です。青森県と岩手県の県境で大量の廃棄物不法投棄が発見されたことはまだ記憶に新しいことと思います。この事件では投棄した業者が廃業しており、結局、廃棄物を排出したメーカーが責任を負わされました。また、筆者が聞いた例では、灯油を流出させて汚染が湾内の養殖場に流れ込んだ例、作業員が作業場にこぼれた染料を無造作に洗い流したばかりに、公共の側溝が着色し、数100m先の川まで汚れてしまい、刑事事件にまで発展した例などがあります。ひとたびこのような汚染事件を起こしますと、復旧に莫大な費用がかかるのみならず、社会的信用も失墜することになり、容易に立ち直れない痛手を被ります。ISO14001は、このようなリスクを抽出し、予防措置を取り、万が一起きた場合でもこれを最小にとどめる有効な仕組みを提供します。

環境問題を経営の中心に据える第二の意義は、CSR(企業の社会的責任)です。CSRの考え方は古くからありますが、最近良く話題に上るようになりました。急速に劣化しつつある地球環境は、大量生産・大量消費・大量廃棄を良しとする価値観を無意味なものとしつつあります。企業存続のために、新しい理念・価値観を求めざるをえないわけです。その一つが、いわゆる経済・環境・社会のトリプルボトムアップの考え方であり、ここで言う社会とは、障害者の雇用とか幼少労働の禁止などの社会的公正や地域、途上国への貢献活動などを意味します。

ISO14001は社会的側面には限界があり、他の規格に委ねざるを得ませんが、環境への取り組みを通して社会的責任を果たすツールとなります。そして、持続可能な環境活動と持続可能な経済活動を同じ軸で高めることを目指します。このことはISO14001の序文に「組織の環境上、及び経済上の目標の達成を支援するために…」と明確に記載されています。それではどのようにすれば可能でしょうか。まずは本業に正面から取り組むことです。事務所の紙・ゴミ・電気にとどまらずに現場に出ることです。そこにはたくさん省エネ・省資源テーマが転がっているはずで、原材料の購入、検査、包装、配送にムダはないでしょうか。また、環境にやさしい製品を設計することも使用段階での環境負荷を下げるという意味で重要です。

ムーディー・インターナショナル・サーティフィケーションは現場に置けるリスク把握を重視します。そして、収益の上がる環境活動を大切にします。認証審査、継続審査を通して、お客様の「環境経営」に役立つべく、日夜励んでおります。

次回は「EMSの要素(1)環境側面」についてお話し致します。

株式会社ふじや食品様は、福井県武生市に本社がある全国規模のチルド食品メーカーで、玉子豆腐、茶碗蒸し、餃子、ワンタン、グラタン、ピザなどの同社製品は全国のスーパー等で見ることができます。

ご存知かもしれませんが、ISO9001/14001の審査日数は組織の規模等によって決まります。先日行われた同社の審査は、1次、2次審査合わせて3人の審査員で6日間かけて行われ、MICで過去最長の審査日数となりました。審査は9001と14001の統合審査で、同社工場はHACCPシステムに基づいているため、特別にHACCPの専門知識のある弊社の審査員が担当しました。同社が比較的短期間で統合審査を受審することが出来た理由として、同社を担当したコンサルタントの方は、

社長からのトップダウンが明快であった
プロジェクトチームの使命感が極めて大きかった
PDCAの仕組み、手順、記録が既に確立されていた

の3点を挙げられました。

また、2次審査の1週間前には、同社の常務様と環境委員代表の方が、MICの内部監査員コース(大阪)に参加されました。お二方とも2日間真剣に取り組まれ、環境に取り組む姿勢を新たに、自信と余裕にあふれて帰られました。

ふじや食品様のホームページで「今月のおすすめ」、「クッキング」、「ミニ知識」などを見てみると、お腹がすいてきて、会社帰りにスーパーで、同社の商品を探したくなります。私も、審査の帰りに、「茶碗蒸し」と「餃子」を買って帰りました。会社・商品案内はホームページに掲載されています。



<http://www.fuzi-ya-food.co.jp/>



前回到引き続き、今回もISO9004についてご紹介致します。

皆様ご存知のように、ISO9001は要求事項ですが、ISO9004は改善の指針です。大きな特徴として、ISO9001は「～しなければならない」ですが、ISO9004は「～するとよい」になっており、より高い目標が書かれています。ISO9000では、継続的改善は「要求事項を満たす能力を高めるために、繰り返し行われる活動」とありますが、ISO9004の附属書B「継続的改善のためのプロセス」では、さらに含めるとよいとして、以下が挙げられています。より高いパフォーマンス改善の参考にして頂ければと思います

a) 改善の理由

プロセスの問題点を特定し、改善領域を選定し、そこに手を加える理由を書き留めるとよい。

b) 現在の状況

既存プロセスの有効性及び効率を評価するとよい。最も多く発生する問題の種類を発見するためのデータを収集し、分析するとよい。具体的な問題を選定し、改善の目標を設定するとよい。

c) 分析

問題の根本原因を特定し、検証するとよい。

d) 可能な解決策の特定

代替解決策を探求するとよい。最良の解決策、すなわち、問題の根本原因を除去し、再発を防止するための方策を選択し、実施するとよい。

e) 効果の評価

問題及びその根本原因が除去された、又はそれらの影響が減少していることを確認するとよい、また、解決策が効果を上げており、改善の目標が達成されていることを確認するとよい。

f) 新しい解決策の実施と標準化

問題及びその根本原因が再発するのを防ぐために、古いプロセスを改善されたプロセスに置き換えるるとよい。

g) 改善処置が完了したプロセスの有効性及び効率の評価

改善プロジェクトの有効性及び効率を評価するとよい、また、得られた解決策を組織の他の部署で利用することを考慮するとよい。

管理者は、改善活動における人々の参画及び認識を促進するために、次のような活動を考慮するとよい。

小集団を編成し、集団の構成員に、リーダーを選出させる。

人々が職場を管理し、改善することを認める。

組織の総合的品質マネジメント活動の一部として、人々の知識、経験、及び技量を育成する。





お客さまからのお便り



ISO14001の維持審査を終えて

株式会社ヤマショー (ISO14001認証登録)
代表取締役 山本 孝幸



この度は、御社の社内報に寄稿の機会を頂き有難うございます。当社は、平成10年創業で、従業員18人ほどのまだ若い会社です

が、下記の業務を通して売上を伸ばして参りました。そして昨年6月には、お陰様でISO14001の認証取得も出来ました。

当社は、産業廃棄物の収集・運搬及び中間処理を業としており、中間処理工場(当社では資源リサイクル工場と称しております)は石川県寺井町の工業団地内に昨年3月から稼動していますが、主に建築現場や各種工場の廃棄物を収集し、処理しております。私の狙いとして、この業務を通して環境保全に努め、有益な環境影響を伸ばすことに重点をおき、更には地域への貢献に努めていきたいと考えております。

中間処理工場は、破碎機2台を設置して産業廃棄物の処理を行っておりますが、特に次のような点をご披露したいと思います。

- 先ず、中間処理工場をゼロエミッションを推進する工業団地内に設置したことが、当社にとっても、工業団地にとってもよかったことです。計画段階では、工業団地組合に理解して頂き、受入を承諾して頂くまで、かなり苦労しました。従来、この種の工場は人里離れてポツンと立地しているのが一般的でした。何しろ、産業廃棄物処理工場に対する汚い、周囲へ公害を与えるといっ

たイメージを払拭して頂くための説明から始めたわけです。そして、工場建設の認可を受け、建設し、稼動状況を見て頂いた結果、今では団地内で発生する廃棄物の処理サイクルの中に組み入れて頂いている程に理解を得ております。

- 中間処理工場建屋は、周辺への飛散等の影響を予防するため、完全密閉型の構造になっており、更に、破碎機への防振ゴム、建屋壁面への防音シート、フィルター付の換気扇、4層油水分離槽の建屋内設置等により、分別や破碎時の粉塵、油分を含んだ排水、並びに騒音・振動等の外部への影響を極限まで抑えております。
- また、省エネを配慮して採光屋根を採り入れ、日中は照明を使用しておりません。
- 工場内の異常発生の即時把握を含め稼動状況は、監視カメラにより24時間本社にてチェックできる体制にしております。
- 工場へ持込まれる産業廃棄物は、分別をしてから破碎しており、その結果収集した産業廃棄物の64%はリサイクルへ回しております。今後はこの比率を更に高めていくことが私どもにとっては、有益な環境影響を伸ばしていくことになると考えております。

以上のような状況ですが、特にISO14001認証取得後は、工場見学や大手企業を含む引合いが更に増え、売上増につながっており、本当にISO14001を導入してよかったと実感しております。今後の抱負として、現在の中間処理工場を名実ともにリサイクル工場として発展させるとともに、更に業容拡大も考えており、より一層の社会への貢献に努めて参る所存です。何卒今後ともよろしくお願い致します。

ISO14001を導入して

株式会社長崎スクラップセンター (ISO14001認証登録)
有限会社鉄屋商会
有限会社清紀運輸 常務取締役 吉岡 輝光

この度、ISO14001認証取得企業の一員となれましたこと、ご指導頂きました方々に、社員一同心から感謝申し上げる次第です。これで満足することなく、ムーディー大阪で行われる、内部監査員コースに若手社員を参加させ、更に継続的改善を図っていきたく思っております。

私達の会社は、長崎市の近郊にあり、二社は関連会社として、30有余年にわたり鉄屑加工業、廃棄物収集及び中間処理業を、一社は輸送部門として一般貨物運送事業を営んでおります総勢50人未満の企業です。

振り返りますと、近年の環境問題への関心の高まりからISO14001の認証取得の動向は、鉄屑業界、廃棄物業界においても、業界団体での当該説明会開催など顕著になっているところでしたが、取得の事前検討の段階にて、業種柄、認証に向けて解消しなくてはならない事例が、山積み状態であることを再認識させられました。日常、鉄屑の加工処理、廃棄物の処理を支障なく営んでいたにも関わらず、「環境」ということの奥の深さ、難しさ、そして大切さを改めて知らされた思いでした。この思いは、2003年3月にキックオフして以来、各会社の環境管理責任者、スタッフ、そして全社員も同様でしょう。

ISO14001の一連の作業は、一名のコンサルタントに協力を得ながら、三社に共通する事項は合同で行い、ああでもない、こうでもない…と、そのうち本業の打合せに発展する場面もあつたりしました。内部監査の段階にきますと、三社間で順番して監査側、被監査側とお互いに立場を変えて実施することになりました。回を重ねる毎に内容も充実すると共に、互いの実務上の理解も深まる結果となりました。

最後になりましたが、ムーディーの審査員、美濃氏、明石氏に対し、改めて御礼申し上げます。「三社は、循環型社会、リサイクルをすでに数十年にわたり実践して社会に貢献しておられるわけですから、ISO14001の目的・目標内容に本業を取り入れてはどうでしょうか?しいては、事業の収益にも…」のご意見には感銘致しましたが、認証取得を通じて、改めて自社業務の循環型社会での位置付け、全社員の環境意識の向上、そして、三社間の協力関係に新しいパイプラインの構築と、目に見えない効果が多大でありました。私共のISO14001のスタートラインは、結果、身近でシンプルな内容となりましたが、今後もPDCAサイクルに全社員で取り組んでいきたいと考えております。



今回はトップページにも出ている、皆様にはお馴染み(?)のUKASについてです。UKASとは、The United Kingdom Accreditation Service (英国認定機関)の略称で、MICはこのUKASから審査機関としての認定を受け、顧客企業の皆様の審査・認証業務をさせて頂いております。UKASの成立は、1984年に誕生したNACCB (英国認証機関認定審議会)に遡ります。当初英国規格協会の一部門であった認定機能としてのNACCBがDTI (英国貿易産業省)との協定により独立し、現在は、英国国内だけでなく、海外の品質・環境マネジメントシステムの認証機関の認定業務も行っていきます。UKASマークの王冠は、英国政府の認定を意味しており、UKASは、英国唯一の政府認定の認定機関なのです。ちなみに弊社が発行している認証のUKAS認定登録マークにある014という番号は、MICの認定番号を意味し、当社は世界で最初に認定を受けた審査機関の一つです。ご興味のある方は、UKASのHP (http://www.ukas.com/about_accreditation/accredited_bodies/certification_body_schedules.asp) に公開されているUKAS認定の審査機関一覧で当社の名前を探してみてください。

研修コースのご案内

レギュラーコース

- 【コース名】** ● ISO9001:2000
 ・内部監査員コース (2日間)
 ・IRCA認定 IATCA基準審査員研修コース (5日間)
- ISO14001
 ・内部監査員コース (2日間)
 ・IEMA認定 審査員研修コース (5日間)
- 【内 容】** 経験豊富な講師が基礎から実践まで徹底した指導を行い、内部監査員/審査員になるための知識・技量ガイドを提供します。
- 【開催地】** 東京・大阪・福岡
 仙台・北海道 (内部監査員のみ)

給付対象講座

- 【コース名】** ● ISO9001:2000
 ・主任審査員コース (6日間)
- ISO14001
 ・主任審査員コース (6日間)
- 【内 容】** レギュラーコースに1日プラスした厚生労働省の教育訓練給付対象講座です。受給資格者には、最大40% (上限20万円) が支給されます。支給要件、申請手続きについての詳細は最寄りのハローワークにお問合せ下さい。
- 【開催地】** 東京・大阪

～ 受講生からのお便り ～

ムーディーから学んだこと

品質 (2002年11月)・環境審査員コース (2003年4月) 受講
 MIC契約審査員 金田 清治

一昨年、ム - ディ - 社で、私の所属する企業組合の ISO9001 認証審査を受審しました。その時に来られた京都の某主任審査員の方との御縁で大変興味を持ち、審査員研修 (MIC 大阪にて) を環境、品質とも参加させて頂きました。研修は審査のいろはから規格の深い部分まで、非常に丁寧で判りやすいものでした。中でも現場研修 (ある企業での模擬審査体験) は、非常に印象深く、私の審査活動の根底にあります。認証段階ではわからなかったものの方の見方、考え方、そして企業にとって何が本当に大切なのか、等々を教えて頂いた気がします。現在、現場研修の経験を活かし、ISO14001 認証取得に向けて取組み始めた企業と共に勉強しています。現在、ムーディーの審査員として契約し、審査に参加させて頂いています。

一昨年、審査の現場に向かう車中で、審査員の方から審査員になる話を聞いた頃には、先日、東京で行われたムーディーの審査員会議に自分自身が出席し、外国人審査員マネージャーの方々の隣にいることは想像もできませんでした。

今後も、ム - ディ - から学んだことを活かし企業のお役に立つ活動を目指していきたいと思っております。

お知らせ

東京・大阪事務所他、各地で無料セミナー好評開催中!
 (詳細はお問合せ下さい。)

無料セミナー開催予定地
 北海道・仙台・群馬・
 富山・愛媛・広島・福岡



ムーディー・インターナショナル・サーティフィケーション株式会社

<http://www.moodygroup.co.jp>

東京本社

〒103-0012 東京都中央区日本橋堀留町 1-4-2 日本橋Nビル 4F

TEL: (03) 3669-7408 FAX: (03) 3669-7410

E-mail: mi-certification@moodygroup.co.jp

大阪事務所

〒532-0003 大阪府大阪市淀川区宮原4-1-14 住友生命新大阪北ビル13階

TEL: (06) 6150-0571 FAX: (06) 6150-0575

E-mail: mic-osaka@moodygroup.co.jp